

提案主題 保護者と地域、学校が一体となった信頼される学校づくり
 サブテーマ ～目標協働達成の取組を通して～
 協議の柱 学校と家庭・地域社会との連携に係わる教頭の役割について

提言者 玖珠町立玖珠中学校 若杉正明

1 質 疑

- (1) Q これからの社会に求められる資質・能力はどんなものだと考えるか。
 A 地域を好きになって貢献できること。
- (2) Q CSには、教職員の意見が取り入れられるのか。情報は教職員へ知らされているか。また、下部組織の回数はどのくらいか。
 A 学年主任が次の週の企画委員会で還元し、職員会でも周知。保護者は、PTAの学年会長が学年PTAで報告。CSは月1回、目標協働達成会議は年3回。
- (3) Q 目標協働達成会議の目標と地域教育力向上部会の目標の関連、小学校との関わりは。
 A すべて学校教育目標の実現が目標となる。小学校の校長も、部会に所属している。

2 協 議

- (1) CSの設置状況の確認をした。今日の提案が参考になった。地域内の関係が希薄になっている昨今どう進めていくかが課題である。教頭の役割は、地域でできること、できないことを判断し資源を発掘していくことである。
- (2) CSはまだであるが、地域との連携のため、様々な工夫をしている。登下校の見守り、地域の人材のゲストティーチャー、子ども消防団づくり、地域への学校公開等。いずれにしても教頭の役割はつなぐことである。
- (3) 地域との連携のため、標語づくりや学力向上会議への参加要請、SNSチェックの協力要請等を行っている。これまで地域にお願いすることばかりであった。これからは地域と双方向で関わられるように、地域からのニーズを探り支援サポートし、調整役となるのが教頭の役割である。

3 指導助言

- (1) 玖珠中のCSは、当初より地域の教育力を利用し、連携しながら、うまく機能している。
- (2) これからの社会に必要とされる資質・能力は、故郷に対する愛着や誇りを持ち、地域の一員として活躍し、故郷を任せられる人材であろう。
- (3) CSの導入の際、どのような学校づくりをしたいのか、どう連携し、支援してもらいたいのか、教職員・保護者・地域住民と熟議することが大事である。この連携に関わる教頭の役割として、次の5つがある。①校長との連携 ②校内の調整 ③対外的な調整 ④教職員への指導、助言 ⑤人材や資源の新たな発掘